

本号では、特集として、環境学部設置準備室の二ノ宮リムさち先生と小林潤司先生をお招きし、環境学部でない学生が環境学を学ぶ意義についてお話しいただきました。2026年度に環境学部を設置するために本学は動いているところ、2026年度から環境学部の先生にも全学共通科目をご担当いただくこととなります（一部2025年度科目もあり）。本学の全学共通教育の特徴（総合系科目が学びの精神と多彩な学びとで分かれており、成績評価方法など違いがあること）を全カリから環境学部設置準備室にお伝えしつつ、文系系系を跨いで学生にどのような学修をしていただきたいか、思っているところをお話しいただきました。

次に、特別寄稿として、本学名誉教授の佐々木一也先生に「全学共通科目総合系科目の未来に向けて」を寄稿いただきました。佐々木先生は、全カリ部長を2期（4年間）お務めになるなど、本学の全学共通教育に多大な貢献をして下さいました。今年度末で定年のため2025年度からは佐々木先生に講義をお願いできなくなるというタイミングで寄稿をお願いした次第です。全学共通教育の来し方を振り返りつつ、未来の（中には実現が難しいかもしれない）目標をお書きいただきました。立教大学では全教員が全学共通科目を担当する可能性があるという前提で雇用契約が締結されていますが、全教員に全学共通科目の特色が周知されているかというと残念ながら心許ないところもありますので、一人でも多くの教員の目に届くことを祈ります。

さらに、本号においても多数の事例報告及び授業探訪のご寄稿をいただきました。字数の関係で詳細できず恐縮ですが、オンデマンド授業の実践例として佐伯敦也先生の「手話と人権を考える」、留学生に対するやさしい日本語での教育について池田伸子先生・任ジェヒ先生の「多文化共生社会と大学」「多文化共生社会と日本」、言語AのSam Morris先生からはCLIL (Content and Language Integrated Learning) の設計について、言語Bの金鉉洙先生・佐々木正徳先生からは朝鮮語演習2について、三ッ石祐子先生からは総合系科目としてのドイツ文化理解について、本学の外国語教育研究センター (FLER) の特色である複言語・複文化主義について三浦愛香先生（+高嶋幸太先生、町沙恵子先生、牛山さおり先生）の「多言語・多文化理解を促す日本語」、立教サービスマーケティングセンター提供科目について中沢聖史先生の「SDGsと現代社会の課題とその関わり方入門」、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと本学との協定で新設された科目について福原真澄先生の「子どもの権利から考える国際協力」、という特色のある科目のラインナップとなっております。